



教授の呟き

第30回

みんなに見てほしい物流の履歴

東京海洋大学教授

苦瀬博仁

●●● 多くなった生産履歴の表示

最近スーパーに行くと「〇〇村の〇〇さんが作った有機栽培のニンジン」などと、生産地だけでなく生産者も表示されることが多くなった。健康を気遣っている人は、表示されている食品成分を注意深くチェックすることができる。牛肉であればBSE（牛海綿状脳症）を防ぐために、飼育過程や部位まで分かるようになっている。総菜品にいたっては、調理された時刻まで示されている。

しかし、流通経路を示してはいない。

一般に流通経路というと「商品が、どのような生産者から、どのような問屋を経て小売店まで届くか（製造業→卸売業→小売業）」を示すことが多い。厳密に言えば、これは業種間の流通経路である。施設間の流通経路は「工場→倉庫→店舗」であり、地域間の流通経路は「大阪→東京→埼玉」などとなる（下図参照）。

加工食品を例にとれば、「〇〇食品、〇〇工場、〇〇市、成分、原材料、

賞味期限」などの表示は、業種で見れば「生産者（製造業や農林水産業）」、施設で見れば「生産施設」、地域で見れば「生産地」に限られている。このことは、履歴表示が生産段階にとどまっていることでもある。

●●● 消費者に伝えたい、物流の履歴

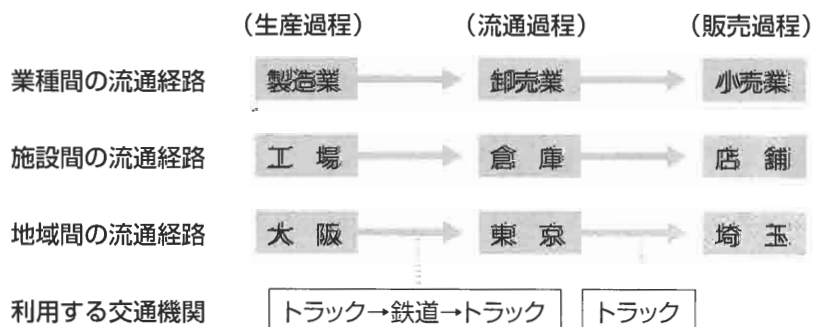
では「商品がどのように運ばれてきたか」を、消費者はどこで知り得るのだろうか。

宅配便などでは、伝票番号を各社のホームページで問い合わせれば、荷物がいつ、どこの配送センターを通過したかが分かる。しかし、どのような交通機関により、どのようなルートで運ばれたかまでは、知ることができない。

同じように、消費者が手にする一般の商品にも「どのように運ばれてきたか」という表示はない。低積載率でムダの多い配送システムで運ばれた商品と、環境保全を考えながら効率的にムダなく運ばれた商品の、区別がつかないのである。

それゆえ、たとえ環境意識の高い

流通経路の種類



消費者であっても、自らの選択した商品が輸配送中に環境へ与える影響を知る機会は、ほとんどなかった。

しかし、生産の履歴だけでなく、どのように輸送されてきたという物流の履歴が表示されれば、環境への影響を実感できることだろう。商品の品質や価格に大きな差がなければ、消費者が環境への影響の少ない商品を選ぶことも期待できる。

●●●● 輸送についての新たな試み

例えば天然ガス（CNG）車やハイブリッド車を導入している企業がある。積載率や運行計画の面で環境に配慮しているところもある。それらの会社やトラックなどに、公式のマークを付けて、取り組みを消費者に認識してもらう価値は十分にある。

そんな中で最初の取り組みとして、環境にやさしい輸送実現のためのモデルシフトを応援する「エコレールマーク」⁽¹⁾がある。4月から商品認定の受付が始まった。

対象は加工食品や家電製品など消費者向けの商品である。工場などから小売店まで輸送距離が500km以上のときに、30%以上の量（数量または数量×距離）を鉄道で輸送している商品に印刷できる。また企業単位では、同じく全商品のうち15%以上を基準として環境報告書などにマークの使用を許可している。

これを第一歩として、次はトラック輸送に対する環境評価の仕組みの番だ。

環境にやさしい商品を選ぶ消費者



●●●● 環境意識の高い消費者への期待

トレーサビリティは、米国での同時多発テロやBSEをきっかけに安全性確保の面から注目された。そのせいか、物流を管理する荷主や物流事業者の課題と考える向きも多い。

しかし、環境対策は官庁と企業がいくら熱心でも、消費者が無関心で

あれば実現はおぼつかない。だからこそ、消費者に物流の履歴を伝える工夫は必要である。

生産履歴に比較すれば、消費者向けの物流履歴の表示の試みは始まったばかりである。このような動きが拡大していき、環境保全への貢献に結びついていくことを願っている。☑

(1) 国土交通省鉄道局
<http://www.mlit.go.jp/tetudo/index.html>

東京海洋大学 海洋工学部
流通情報工学科 教授

苦瀬博仁

(くせ ひろひと) 1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。75年、同大学大学院修士課程修了。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年から東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。副学部長を経て、04年4月より評議員。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授。04年6月より東京大学大学院医学系研究科客員教授（併任）。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」（税務経理協会）、「都市交通—都市交通計画・都市物流計画」（丸善）、「マニラ・エンジョイ・トラブル」（論創社）、「明日の都市交通政策」（成文堂）
<http://www.e.kaiyodai.ac.jp/kuse/>

